

大分県大分市川井
新田の井戸



目 次

1	松くい虫の被害木
2	成虫による見分け方
3	誘引器に集まる昆虫
4	幼虫による見分け方
5	幼虫の頭による見分け方
6	マツノマダラカミギリの食痕
7	産卵痕の見分け方
8	木屑による見分け方
9	成虫の脱出孔による見分け方
10	他のカミギリ類の食痕
11	キクイムシ類の食痕
12	ゾウムシ類の食痕
13	ニトベキバチの食痕



(体長1ミリメートル足らず)

マツノザイセンチュウ

(松を枯らす病原体)

マツノマダラカミギリが健康なマツの小枝の皮を食害する時にその食害痕から侵入してマツを枯らす。

松くい虫の被害木

1



庭木の被害



被害初期林分



激害化した林分

成虫による見分け方

2



(実物大——これより小さい個体もある)

雄

触角が褐色



6

雌

触角が褐色と
白色のダンダ
ラ模様



8

カラフトヒゲナガカミキリ

濃褐色に黄色の斑点が特徴

マツノマダラカミキリ

背中 of 灰色のまだら模様が特徴

誘引器に集まる昆虫

3



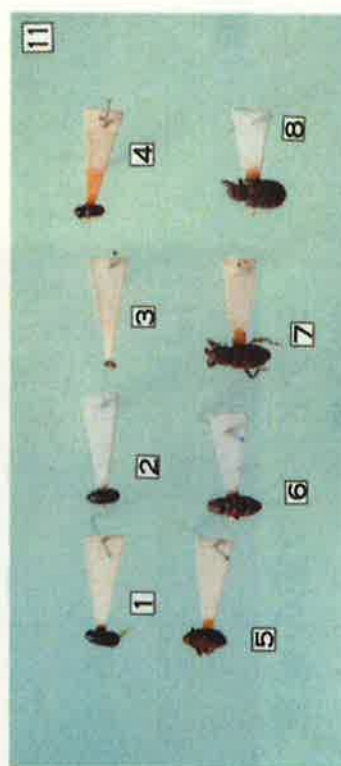
(実物大)

- 6 ニトベキベチ
- 5 ミドリカミキリ
- 4 カミキリモドキ類
- 3 ヤバズカミキリ
- 2 アカハナカミキリ
- 1 ノコギリカミキリ



(実物大)

- 5 カミキリ
- 5 ヒメナガモエト
- 4 ヒロウドカミキリ
- 3 サビカミキリ(雌)
- 2 サビカミキリ(雄)
- 1 クロカミキリ



(実物大)

- 8 クロコブゾウムシ
- 7 マツアナアキゾウムシ
- 6 マツキボシゾウムシ
- 5 シラホシゾウムシ
- 4 マツノムツバキクイムシ
- 3 キイロコキクイムシ
- 2 マツノコキクイムシ
- 1 マツノキクイムシ

幼虫による見分け方

4



カミキリ類の幼虫

右から

1. 2 番目; マツノマダラ

カミキリ

3 番目; クロカミキリ

左 3 匹; ヒゲナガモモブ

トカミキリ

カミキリ類の共通
の特徴

1. 体が長い
2. 足が無い
3. 色が薄い
(白～黄褐色)

(注) ゾウムシ、キクイムシ
類はウジ虫状

樹皮下の幼虫



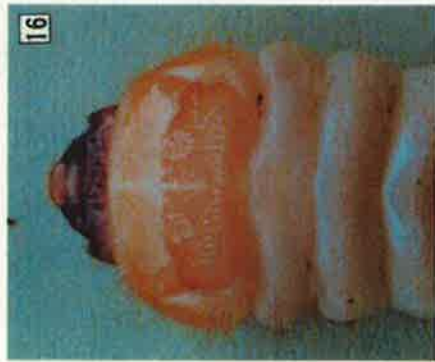
材内の幼虫



シラホシゾウ属の蛹室
と幼虫

幼虫の頭による見分は方

5

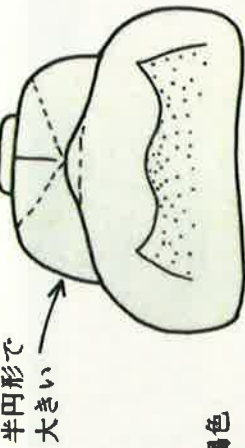
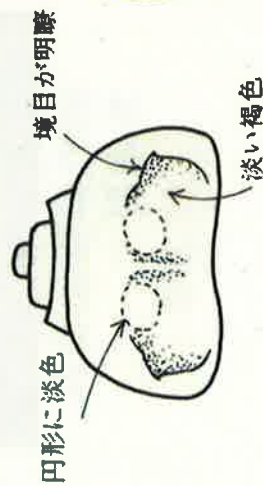


マツノマダラカミキリ

ビロウドカミキリ

ヒゲナガモモブト

クロカミキリ
サビカミキリ



カラフトヒゲナガカミキリと極めて良く似ている。

(注) マツノマダラカミキリ、ビロウドカミキリ、ヒゲナガモモブトカミキリ、カラフトヒゲナガカミキリは食痕のみからは判別が困難であるが、幼虫の頭部を虫メガネで見れば簡単に区別できる。

マツノマダラカミキリの食痕

6



産卵痕

7 参照



樹皮下の細長い木層

8 参照



材外に排出された木層

8 参照



幼虫の材入孔

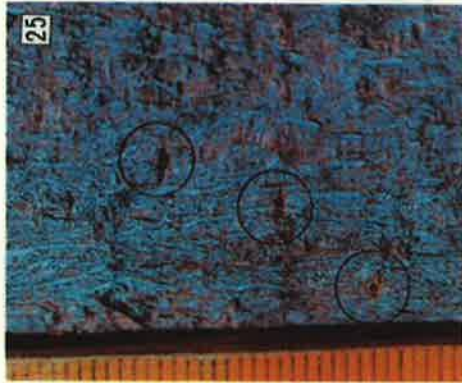


成虫の羽化脱出孔

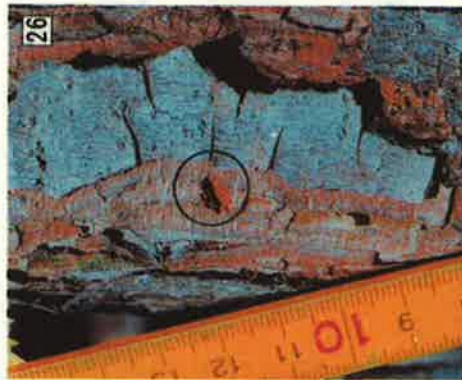
9 参照

産卵痕の見分_け方

7



薄皮部



中間部



厚皮部



密集した産卵痕

間違_いやすい食痕



キクイムシ類、ソウムシ類の脱出孔



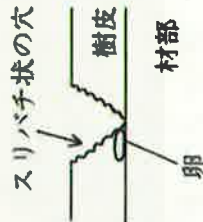
キツツキによる傷

特徴

薄皮部を上から見た図



厚皮部の断面図



木屑による見分は方

8



マツノマダラカミキリ

排出された木屑

細長い

鋸屑状



オオゾウムシ



マツノマダラカミキリ

細長い木屑

皮の下に広く拡がる

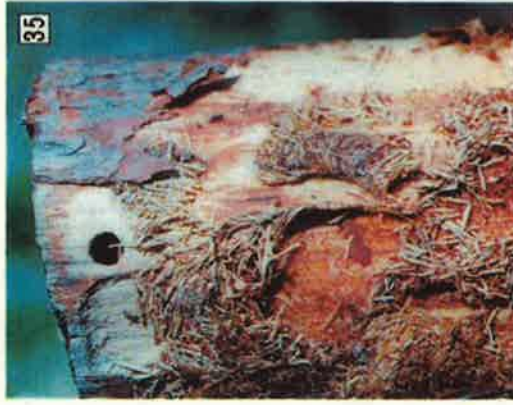
蛹室の部分だけ



クロコゾウムシ

成虫の脱出孔による見分け方

9



マツノマダラカミキリ



オオゾウムシ



ニトベキバチ



サビカミキリ

材表面に食痕・木屑がある。

正円形

材表面に食痕がない

縦長の円形

(注) ビロウドカミキリ、カラフトヒゲナガカミキリの脱出孔と極めて良く似ているので、脱出孔だけで判別することは困難。

→ ③ 幼虫の頭による見分け方を参照

他のカミキリ類の食痕

10



サビカミキリ、クロカミキリの食痕

材表面、材内部の食痕に白っぽい粘土
あるいはトノコ状の糞が混っている。
マツノマダダラカミキリとは一見して区
別できる。

ビロウドカミキリの食痕

これに細長い木屑が
混るので、マツノマ
ダラカミキリとの区
別は困難である。

キクイムシ類の食痕

11



マツノコクイムシ

幹下部の厚皮部に寄生する。春産卵。

水平な母孔と縦に出ている子孔が特徴。



マツノキクイムシ

幹下部の厚皮部に寄生する。春産卵。

縦方向の母孔と水平に出ている子孔が特徴。



マツノムツバキクイムシ

幹の中位の高さの薄皮の部分に寄生する。

夏産卵。

1箇所から3~4本の母孔が出ており、これらが材面に溝状に凹んでいる。



キイロコクイムシ

幹の上部、枝に寄生する。夏産卵。

樹皮表面の針で突いたような小さな穴が特徴。

(注) 母孔…親の食害痕 子孔…幼虫の食害痕

ゾウムシ類の食痕

12



マツキボシゾウムシ

幹中上部の薄皮の部分に寄生する。春産卵。蛹室は材部の方に凹んでいる。中央の穴は成虫が脱出した跡。



シラホシゾウムシ

幹下部の厚皮から幹中部の薄皮の部分に寄生する。夏産卵。馬蹄形の中心部に蛹室を作る。蛹室は材よりも皮の方に凹んでいる。

写真 15 参照



クロコブゾウ

湿った材に寄生、あまり多くないが、細長い木屑がマツノマダラカミキリと良く似ているので、気を付ける必要がある。

写真 34 参照



オオゾウムシ

立木の根元、伐根、伐倒木の接地面など地面に近い部分に寄生する。木屑を排出し、正円形の穴があるので、マツノマダラカミキリと間違えやすい。

写真 33 56 参照

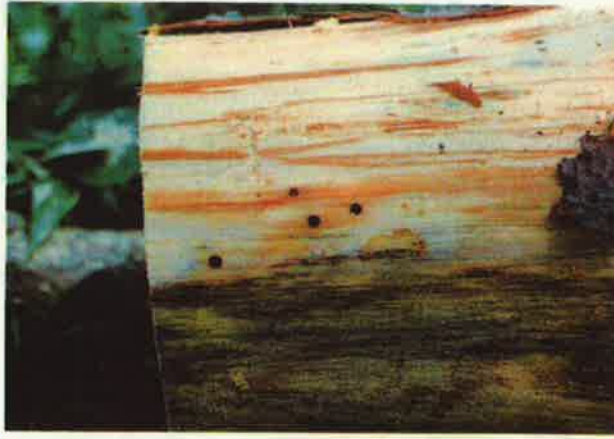
ニトベキバチの食痕

13



産 卵 痕

夏の終り頃から秋に産卵する。産卵部からヤニが点出しているのが特徴。



成虫の脱出孔

前年産み付けられた卵から孵化した幼虫は、翌年、材の内部を食害し、夏～秋に成虫になって脱出する。

この虫は、他の虫が活動しなくなった秋に産卵するため、材表面にほとんど虫による食害痕が無い木に寄生していることが多い。

春の調査で、このような産卵痕がある木は、たとえ針葉が緑色であって、前年の秋には衰弱・枯死していたと考えて良い。

マツノマダラカミキリ判定の手引

昭和60年7月 日

監修 岩手県林業課

岩手県林業試験場

発行 岩手県緑化推進委員会

〒020 岩手県盛岡市中央通3丁目15番

(岩手県森林組合会館内)

TEL 0196 (54) 4411

印刷 川嶋印刷株式会社

